

洪水・土砂災害ハザードマップ

想定最大規模の降雨について

河川の洪水対策は、これまで「河川整備の目標とする降雨」を前提としていましたが、近年の風水害を受け、堤防などの施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するものという考え方のもと、新たに「想定される最大規模の降雨」が設定されました。このハザードマップでは中央市に影響のある各河川で想定される最大規模の降雨による浸水想定区域及び最大浸水深を重ね合わせて示しています。

想定最大規模の降雨に対する避難について

洪水、土砂災害時の避難方法は原則、その危険性のない場所へ避難する立ち退き避難です。浸水が想定される区域、土砂災害のおそれがある区域にお住まいの方は早期に危険性がない避難先に避難してください。

ただし、道路の冠水や雨が強く降っている状況で、移動することにより命の危険があると判断する場合は近隣の安全な場所(頑強で高い建物や土砂災害のおそれのない標高の高い場所)や屋内での安全の確保を検討してください。



過去の災害では避難途中で災害に巻き込まれ犠牲になられた方もいます。災害時には、自らの判断において避難行動を実施していただくことが原則です。お住まいの地域や自宅、学校、職場付近にどのような災害リスクがあるのかを把握しておくことが正しい避難行動につながります。

想定シナリオ

近年、想定を超える大雨による浸水被害が多発していることをふまえ、想定される最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域を国と山梨県がそれぞれ公表しました。これを受け、中央市では、次の表のシナリオに基づく浸水想定区域を重ね合わせ、中央市で想定される最大の浸水深をこの防災マニュアルのP.10からP.15に掲載しています。なお、支川の決壊によるはん濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨によるはん濫及び内水によるはん濫等については考慮しておりません。

河川名(実施機関)	降雨条件	河川名(実施機関)	降雨条件
釜無川 (国(甲府河川事務所))	富士川上流域:632mm/48時間	閻門川 (山梨県)	836mm/1日
	富士川下流域:565mm/48時間	関沢川 (山梨県)	836mm/1日
笛吹川 (国(甲府河川事務所))	632mm/48時間	宮沢川 (山梨県)	836mm/1日
芦川 (山梨県)	92.34mm/1時間	山王川 (山梨県)	836mm/1日
荒川 (山梨県)	810.0mm/2日	四分川 (山梨県)	810mm/2日
境川 (山梨県)	142.89mm/1時間	七覚川 (山梨県)	836mm/1日
滝戸川 (山梨県)	138.12mm/1時間	舟井川 (山梨県)	836mm/1日
滝沢川 (山梨県)	125.19mm/1時間	渋川 (山梨県)	836mm/1日
鎌田川 (山梨県)	72.98mm/1時間	常永川 (山梨県)	836mm/1日
貢川 (山梨県)	132.95mm/1時間	神明川 (山梨県)	836mm/1日
横川 (山梨県)	836mm/1日	清水川 (山梨県)	836mm/1日

円滑な避難をするために

台風などの風水害やそれに伴う土砂災害はあらかじめ予測のできる災害です。災害から命を守るために必要な情報・行動を事前に確認しておきましょう。

かなり大型の台風みたいだ。
うちは川が近くだから心配だな。



台風に備えて、
事前にやるべきことを
確認しておこう。



このままじゃ、
台風が直撃だな、
避難先を
考えなくちゃ。



「高齢者等避難」が
発令された。(P.7参照)
まだ、雨は強く降っていないし、
うちはおばあちゃんもいるし、
今のうちに
避難を開始しよう。



無事、避難できてよかったです。
市内では、川のはん濫や土砂災害が
発生しているみたいだな。



台風発生

行動のポイント

- テレビ等で天気予報を確認
- インターネットで気象情報を収集
- ハザードマップで自宅等の災害リスクや、避難先、避難経路を確認
- 防災グッズや家族の必要なものを準備(不足があれば買い出しへ)
- 家族全員の今後の予定を確認(遠出する予定がある場合はキャンセルも検討)

- 非常持出袋の準備
- 自宅の浸水しそうなところには土のうを設置
- 家の周りの側溝の清掃
- 風で飛ばされそうな家の周りにあるものは片付ける
- 1階が浸水するおそれがある場合は家財を2階に上げる
- 携帯電話の充電

- テレビ、インターネットで河川の水位情報や気象情報に注意(P.27参照)
- 市からの避難情報に注意
- 浸水や土砂災害が想定されない場所の避難先に避難を開始

- 避難先に着いてからも、ラジオや携帯電話から情報収集

台風直撃

雨と風の強さの目安

降っている雨や風を観察し、危険な状態になる前に避難ができるよう、雨と風の強さの目安とその状況を知っておきましょう。

雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	傘をさしていてもぬれる。		傘は全く役に立たなくなる。	
屋内 (木造住宅を想定)	雨の音で話し声がよく聞き取れない。		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。		
屋外の様子	地面一面に水たまりができる。		道路が川のようになる。	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
車に乗っていて	特になし。	ワイパーを速くしても見づらい。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。(ハイドロプレーニング現象)	車の運転は危険。	

風の強さと吹き方

平均風速(m/s)	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～30未満	30以上～35未満	35以上～40未満	40以上～
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風		
おおよその時速	～50km	～70km	～90km	～110km	～125km	～140km	140km～
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業は極めて危険。	何かにつかまっていないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。		屋外での行動は極めて危険。		
屋外・樹木の様子	樹木全体がゆれ始める。電線がゆれ始める。	電線が鳴り始める。看板やトタン屋根が外れ始める。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。		多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものもある。ブロック壁で倒壊するものがある。		

水位観測所

避難行動の判断基準となる河川水位



避難に関する情報

市では災害が発生または発生するおそれがある場合には、防災無線等により避難情報を発令します。それぞれの内容を十分に理解し、災害時には正しい行動をとることが大切です。避難の基本は**自助・共助**です。危険を感じた場合は避難情報が発令される前に避難する、立ち退き避難が難しいと判断する場合は屋内安全確保に切り替えるなど、自分の判断で避難をすることが大切です。

警戒レベルと防災気象情報

警戒レベル	住民の皆さんができるべき行動	避難情報	警戒レベルに相当する気象庁等の情報		
5	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保 (市が発令)※1	大雨 特別警報	キキクル (危険度分布) 災害切迫	はん濫 発生情報

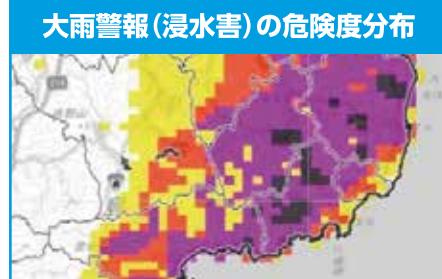
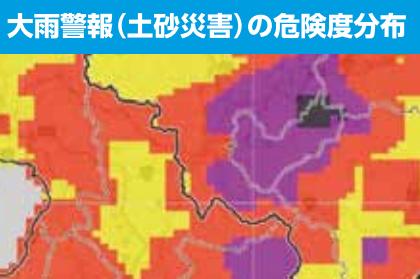
警戒レベル4までに必ず避難！

4	危険な場所から全員避難 ●過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。 この段階までに避難を完了しておく。 ●台風などにより暴風が予想される場合は、 暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示 (市が発令)	土砂災害 警戒情報	危険	はん濫 危険情報
3	危険な場所から高齢者等は避難 ●単独での避難が難しい高齢者、障がい者、 乳幼児、妊娠婦、外国人などはこの段階で 避難を開始する。 ●それ以外の人も必要に応じ、普段の行動を見 合わせ、避難の準備を行い自主的に避難する。	高齢者等避難 (市が発令)	大雨警報 洪水警報	警戒	はん濫 警戒情報
2	自らの避難行動を確認 ●ハザードマップなどで、災害が想定されて いる区域や避難先、避難経路を確認すると ともに、避難情報の把握手段を再確認する。	大雨警報に切り替える 可能性が高い 注意報	大雨注意報 洪水注意報	注意	はん濫 注意情報
1	災害への心構えを高める	—	早期注意情報 (警報級の可能性)	警戒レベルと防災気象情報等 については今後国が情報を 更新する可能性があります。 気象庁のホームページから最新の情報を確認するようにしま しょう。	

※1 市が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。

キキクル (危険度分布)

大雨による土砂災害、浸水害、洪水の危険度をキキクルのホームページで色分けして掲載しており、
紫色は危険度が高い箇所を示しています。



色がついている箇所はこんなところに注意

土砂災害(特別)警戒区域
がけ・渓流付近

避難時の危険箇所

洪水浸水想定区域
河川沿い

水害時の避難の心得

立ち退き避難の場合

集中豪雨や台風により、避難が必要と判断した場合は、避難所だけでなく、安全な場所にある親戚・知人宅や宿泊施設（ホテルなど）に避難するなど、自らの判断で最善の安全確保行動をとることが重要です。

指定された避難所へ

指定された避難所へ避難します。避難所一覧(P.28～)を確認し、地区ごとに決められた避難所に避難するようにしましょう。

避難所



安全な親戚・知人宅へ

普段から親戚や知人と連絡を取り合い、災害時に避難することを相談しておきましょう。避難する場合は、避難先が安全かどうかを確認しましょう。



安全なホテル・旅館へ

ホテルや旅館に避難する場合でも、通常の宿泊料が必要になります。事前の予約などは早めに行いましょう。



屋内安全確保の場合

屋内安全確保をする場合は、以下の内容を確認しましょう。

- 家屋倒壊等はん濫想定区域に入っていない。
- 想定される浸水深よりも居室が高い位置にある。
- 浸水しても電気、ガス、水道、トイレなどが使え、飲料水や食料などが十分にある。

※土砂災害警戒区域内や早期立ち退きが必要な区域の場合

は立ち退き避難が必要です。

大雨時にとるべき行動を事前に確認しましょう。(P.17)



やむを得ず雨の中を歩かなければならぬ場合

- 長靴、素足は危険です。運動靴をはきましょう。
- 長い棒などをつえの代わりにして、水の中の障害物や側溝に注意しましょう。

長靴は
水が入って
歩けなく
なります



浸水時は水中の障害物が
見えにくくなります



動きやすい服装、
2人以上で避難を！

- リュックサック
- 長袖
- 雨具
- 長ズボン
- 運動靴

ハザードマップの見方

洪水災害に関するマップの見方

本ハザードマップは、国・山梨県が公表している洪水浸水想定区域において想定される最大規模の降雨が発生し、河川がはん濫した場合に予想される浸水想定結果を重ね合わせ、想定される最大規模の浸水深や家屋倒壊等はん濫想定区域、浸水継続時間を示しています。

●浸水想定区域とは

河川のはん濫等により水がかかる区域と、そのときの最大の水の深さを示します。マップでは想定される最大規模の浸水深を記載しています。



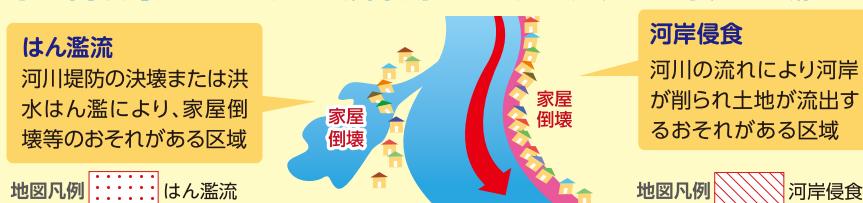
浸水深の目安	
3,4階	5.0~10.0m未満 (3階床上漫水~4階軒下浸水)
2階	3.0~5.0m未満 (2階床上~2階軒下浸水)
1階	0.5~3.0m未満 (1階床上~1階軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

●浸水継続時間とは (P.16)

50cm以上の浸水深が継続する時間です。



●家屋倒壊等はん濫想定区域(早期の立ち退き避難が必要な区域)とは



最上階が浸水するおそれがある場所や、はん濫流・河岸侵食の指定区域は早期の立ち退き避難が必要となる区域です。

土砂災害に関するマップの見方

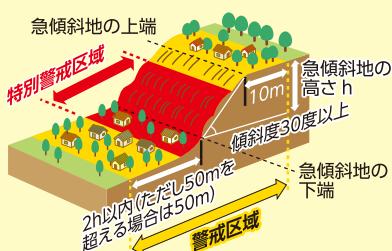
土砂災害の主なものに、急傾斜地の崩壊(かけ崩れ)、土石流、地すべりがあります。

山梨県により、土砂災害の発生のおそれのある区域は、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域として指定されています。

土砂災害警戒区域

急傾斜地の崩壊や土石流、地すべりが発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる土地の区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

がけ崩れの場合



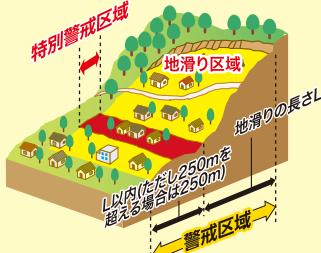
土石流の場合



土砂災害特別警戒区域

急傾斜地の崩壊や土石流、地すべりが発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる土地の区域であり、特定の開発行為に対する許可制や、建築物の構造規制等が行われます。

地すべりの場合



土砂災害の種類	急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）	土石流	地すべり
前兆現象	●がけから小石がパラパラと落ちてくる ●がけに割れ目ができる ●がけから水が吹き出す	●山全体がうなっている（山鳴りがする） ●川の水が濁ったり流木が流れてくる ●雨が続いているのに川の水位が下がる	●地面がひび割れる、一部が陥没あるいは隆起する ●地下水などの水が濁る ●池や湖の水位が急に変化する
地図凡例	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊) 土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)	土砂災害特別警戒区域(土石流) 土砂災害警戒区域(土石流)	※中央市に地すべりが想定されている区域はありません